

令和元年産雑豆の収穫量と 令和2年産雑豆の作付指標面積について

(公財) 日本豆類協会

1 令和元年産雑豆の収穫量

農林水産省大臣官房統計情報部では、令和2年2月28日付けで「令和元年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」について公表した。ここではその調査結果から雑豆に関する部分を抜粋して、下記のとおり紹介する。

(1) 小豆（乾燥子実）

①作付面積

全国の作付面積は2万5,500haで、前年産に比べ1,800ha（8%）増加した。これは、主産地である北海道において、てんさい等からの転換があったためである。

②10a当たり収量

全国の10a当たり収量は232kgで、前年産を30%上回った。これは、主産地である北海道において、登熟期の天候に恵まれたことから、低温、日照不足及び多雨の影響で作柄が悪かった前年産に比べて登熟が良好であったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は、107%となった。

③収穫量

全国の収穫量は5万9,100tで、前年産に比べ1万7,000t（40%）増加した。
なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の94%を占めている。

(2) いんげん（乾燥子実）

①作付面積

全国の作付面積は6,860haで、前年産に比べ490ha（7%）減少した。これは、主産地である北海道において、他作物への転換があったためである。

②10a当たり収量

全国の10a当たり収量は195kgで、前年産を47%上回った。これは、主産地である北海道において、登熟期の天候に恵まれたことから、低温、日照不足及び多雨の影響で作柄が悪かった前年産に比べて登熟が良好であったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は、103%となった。

③収穫量

全国の収穫量は1万3,400tで、前年産に比べ3,640t（37%）増加した。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の95%を占めている。

図1 小豆の10a当たり収量及び収穫量の推移

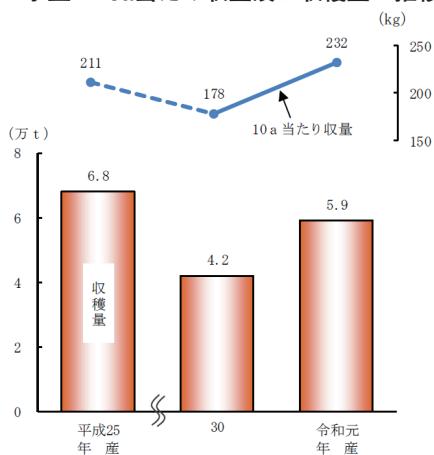


図2 令和元年産小豆の都道府県別収穫量及び割合

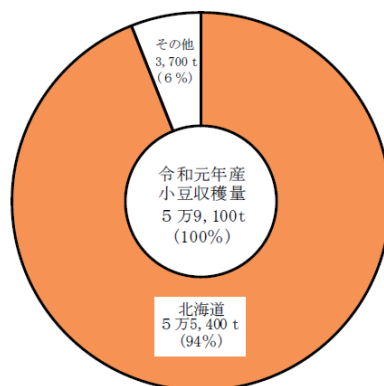


図3 いんげんの10a当たり収量及び収穫量の推移

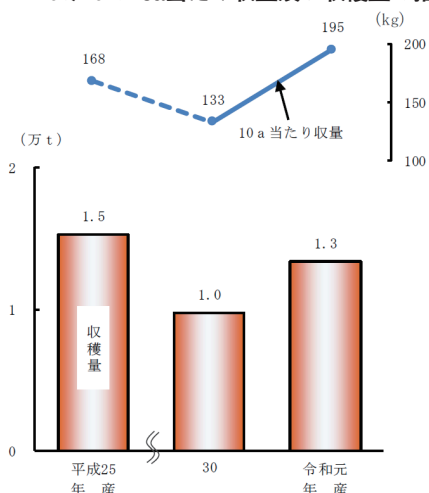


図4 令和元年産いんげんの都道府県別収穫量及び割合

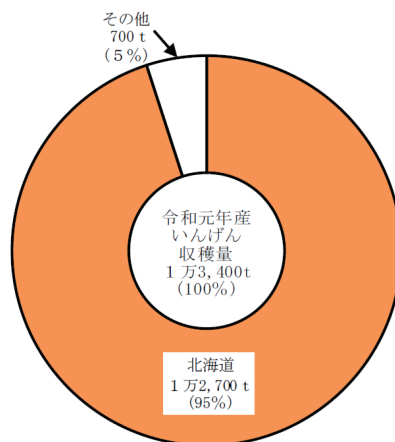


表1 令和元年産小豆（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						（ 参 考 ）	
				作 付 面 積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	ha 25,500	kg 232	t 59,100	ha 1,800	% 108	% 130	t 17,000	% 140	% 107	kg 216	
う ち 北 海 道	20,900	265	55,400	1,800	109	129	16,200	141	106	250	
滋 賀 県	109	77	84	56	206	140	55	290	107	72	
京 都 府	447	54	241	△ 6	99	132	55	130	96	56	
兵 庫 県	786	61	479	79	111	109	83	121	86	71	

表2 令和元年産いんげん（乾燥子実）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収穫量	前 年 産 と の 比 較						（ 参 考 ）	
				作 付 面 積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	ha 6,860	kg 195	t 13,400	△ 490	93	147	t 3,640	137	103	kg 189	
う ち 北 海 道	6,340	200	12,700	△ 450	93	147	3,470	138	102	197	
う ち 金 沢 県	4,590	189	8,680	△ 550	89	166	2,820	148	108	175	
手 亡	1,360	236	3,210	150	112	111	640	125	94	251	

注：「金時」、「手亡」とはいんげんの種類を示す。

表3 小豆及びいんげんの作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

区分	小豆			いんげん		
	作付面積 (ha)	10a当たり収量 (kg)	収穫量 (t)	作付面積 (ha)	10a当たり収量 (kg)	収穫量 (t)
平成22年産	30,700	179	54,900	11,600	190	22,000
23	30,600	196	60,000	10,200	97	9,870
24	30,700	222	68,200	9,650	187	18,000
25	32,300	211	68,000	9,120	168	15,300
26	32,000	240	76,800	9,260	221	20,500
27	27,300	233	63,700	10,200	250	25,500
28	21,300	138	29,500	8,560	66	5,650
29	22,700	235	53,400	7,150	236	16,900
30	23,700	178	42,100	7,350	133	9,760
令和元年産 (概数)	25,500	232	59,100	6,860	195	13,400

2 令和2年産雑豆の作付指標面積（北海道）

(1) 小豆

北海道産小豆類の作付拡大と安定供給が求められているなか、JA北海道中央会等により令和2年産の作付指標面積が昨年より500ha増の22,500haに定められた。

小豆については、作付面積は増加傾向にあるものの、平成30年産の作柄不良により生産量が減少したため、一部のユーザーは輸入小豆への切替を行った。しかしながら、令和元年産については、作付面積の拡大と平年を上回る作柄になり、消費を回復させられる生産量になった。

現在は、道産小豆の消費を守る上で重要な分岐点を迎えているだけでなく、今後の原料原産地表示の義務化による北海道産への供給要望や契約栽培の希望が強まってくることを踏まえると、安定的な供給によりユーザーが安心して使い続けられる小豆の作付と生産量を確保していくことが重要となっている。

こうした状況を踏まえ、今回の作付指標には、小豆の作付拡大と安定供給に対する生産者へのメッセージが込められている。

(2) いんげん

北海道産いんげんの令和2年産の作付指標面積は、菜豆等として、金時、手亡、えん豆等をまとめて昨年より289ha増7,327haとされた。

菜豆類（金時類・高級菜豆）については、小豆類等同様に輪作及び国産需要を確保するうえでは重要な品目の位置付けであることから、品目別の供給体制の強化・確立に向け作付拡大を誘導していく必要があるとされている。

表4 令和2年産雑豆の作付指標面積（北海道）

単位：ha

区分		元年産 実績面積	2年産 作付指標	備考
雑豆	小豆	20,411	22,500	
	菜豆等	6,437	7,327	えん豆等を含む

* 元年産実績面積は、道内農協からの聞き取り値の集計